

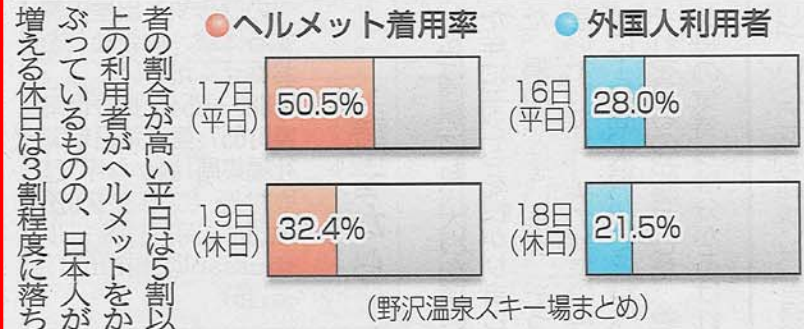
スキー場でのヘルメット着用率 外国人に比べ日本人は低い?

下高井郡野沢温泉村の野沢温泉スキー場が来場者のヘルメット着用状況を初めて調査したところ、外国人の利用

野沢温泉スキー場初めて調査



野沢温泉スキー場内でスキー用品を扱う店。外国人に比べ日本人のヘルメット着用率が低いという



者の割合が高い平日は5割以上の利用者がヘルメットをかぶっているものの、日本人が増える休日は3割程度に落ち込んだ。

●ヘルメット着用率 ●外国人利用者

17日(平日) 50.5% 16日(平日) 28.0%

19日(休日) 32.4% 18日(休日) 21.5%

(野沢温泉スキー場まとめ)

スキー場運営会社の河野博明社長はヘルメットの着用について、スキー場で働く人たちの声を総合して「外国人は7割以上、日本人は2割程度」と推測する。外国人のヘルメット着用率が高いことについて「海外ではヘルメット着用を義務付けるスキー場があり、外国人は自己責任の思いが強いのではないか」とする。

同スキー場では今年7月、ヘルメットをかぶらずにスノーボードをしていた神奈川県の高中生が転倒し、意識不明の重体になる事故があった。県スキー連盟によると、ヘルメット着用率の調査は珍しい。同連盟も安全のためにヘルメットの着用を呼び掛けているが、「浸透していないのが現状」としている。

河野社長によると、同スキー場ではヘルメット着用を呼び掛けるポスターを張り出している他、村内の子どもにヘルメットを贈ったり、パトロール隊に着用を義務付けたりしている。今後はパトロール隊が救助した人のヘルメット着用率を調べたり、レンタル店の呼び掛けを強めていく考えだ。「頭部のけがは致命傷になる。重大な事故を減らすためにはヘルメットをかぶり、自分の身を自分で守ることが必要だ」としている。

が は 20 民の 整は ンタ 今日 弁論 求め 0万 に対